



新潟県

新潟県の経済動向

令和2年7月10日

県内経済の概況（4月～6月）

県内経済は、新型コロナウイルス感染拡大による国内外経済の停滞が与える影響などから、厳しい状況にあるものの、下げ止まりの動きがみられる。

- ・ 個人消費・物価は、下げ止まりの動きがみられる。
- ・ 住宅投資は、おおむね横ばいとなっている。
- ・ 公共投資は、弱含んでいる。
- ・ 設備投資は、弱い動きがみられる。
- ・ 生産は、一段と弱まっている。
- ・ 企業は、厳しさが増している。
- ・ 雇用は、弱い動きとなっている。

【参考】

○新潟県景気動向指数（令和2年6月30日）

令和2年4月の景気動向指数（CI）の一致指数は、78.8となり、前月から3.1ポイント下降し、2か月ぶりの下降となった。

○国内経済の動向（内閣府「月例経済報告」令和2年6月19日）

景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、極めて厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある。

- ・ 個人消費は、緊急事態宣言の解除に伴い、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・ 設備投資は、このところ弱含んでいる。
- ・ 輸出は、感染症の影響により、急速に減少している。
- ・ 生産は、感染症の影響により、減少している。
- ・ 企業収益は、感染症の影響により、急速に減少している。企業の業況判断は、厳しさは残るものの、改善の兆しがみられる。
- ・ 雇用情勢は、感染症の影響により、弱い動きとなっている。
- ・ 消費者物価は、横ばいとなっている。

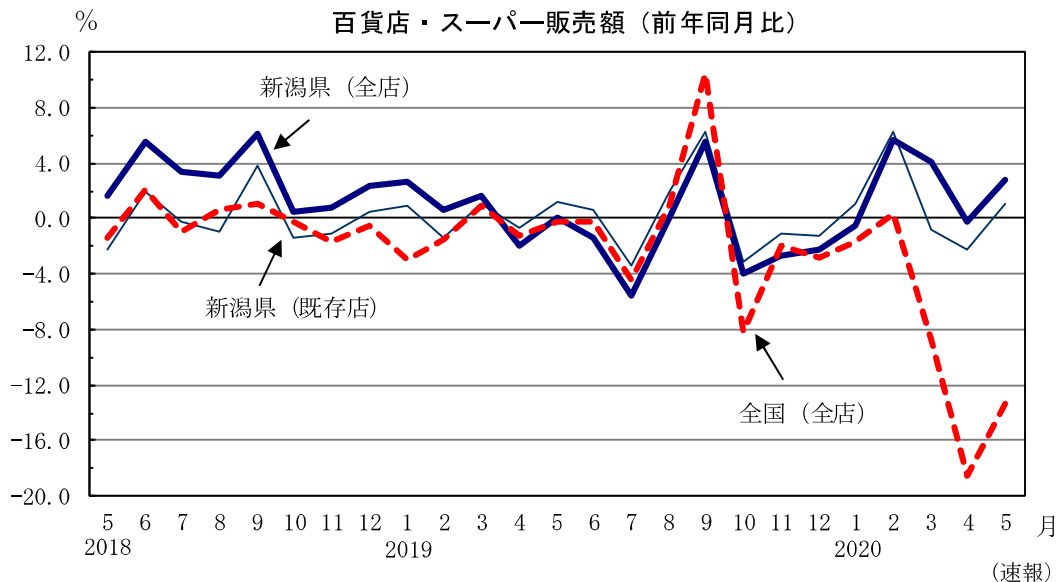
新潟県総務管理部統計課
 担当：調査解析班 八越・小熊
 電話：025-280-5122
 （内線 2448）
ngt010190@pref.niigata.lg.jp

1 個人消費・物価 ～下げ止まりの動きがみられる～

○ 百貨店・スーパー販売額

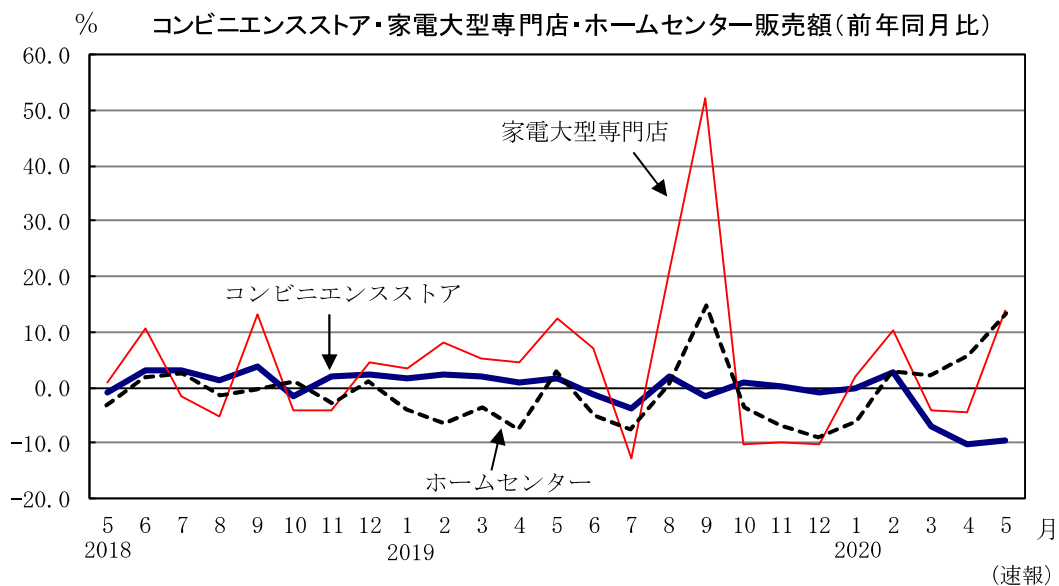
5月の百貨店・スーパー販売額の速報値は、全店では315億円となり、前年同月比2.8%増加し、2か月ぶりに前年を上回った。既存店では同1.1%増加し、3か月ぶりに前年を上回った。

なお、4月の確報値は、全店で293億円となり、前年同月比0.3%減少し、既存店では同2.3%減少と、いずれも前年を下回った。



○ コンビニエンスストア・家電大型専門店・ホームセンター販売額

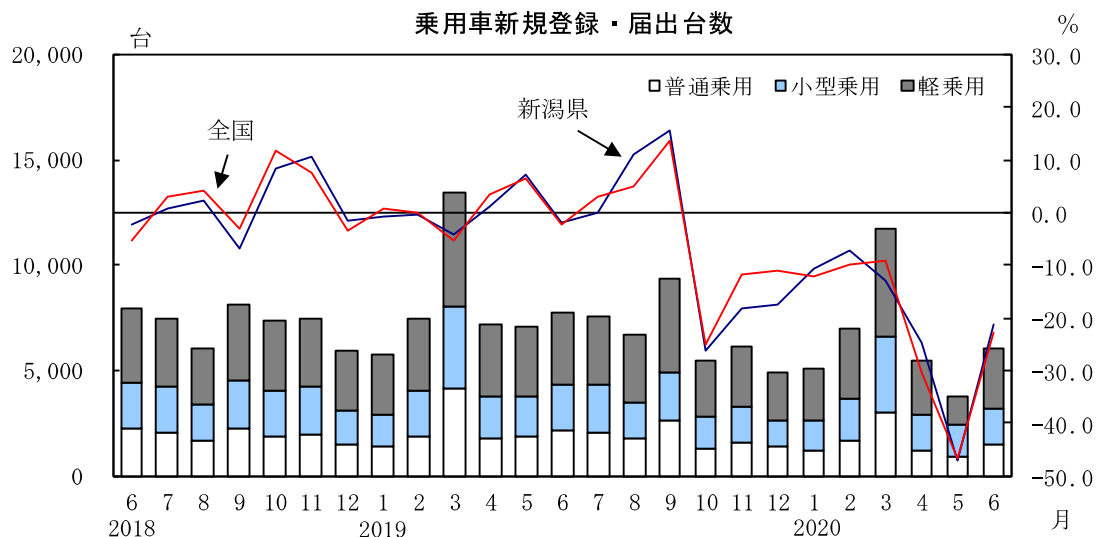
コンビニエンスストア販売額の5月速報値は139億円となり、前年同月比9.6%減少し、3か月連続で前年を下回った。また、家電大型専門店販売額の5月速報値は57億円となり、同13.8%増加し、3か月ぶりに前年を上回った。ホームセンター販売額の5月速報値は102億円となり、同13.4%増加し、4か月連続で前年を上回った。



○ 乗用車（含む軽）新規登録・届出台数

5月の乗用車新規登録・届出台数は6,092台となり、前年同月比21.4%減少し、9か月連続で前年を下回った。

車種別では、普通乗用が前年同月比30.6%、小型乗用が同20.1%、軽乗用が同16.4%それぞれ減少した。



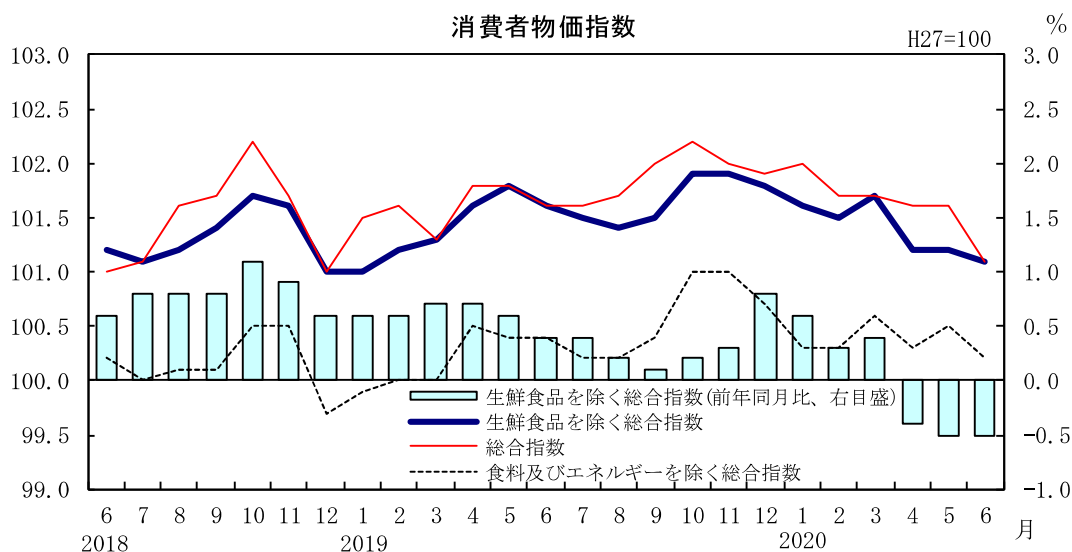
注：棒グラフは新潟県の実数で左目盛、折れ線グラフは前年同月比で右目盛

○ 消費者物価指数

6月の新潟市消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は101.1となり、前年同月比0.5%下落し、3か月連続で前年を下回った。

費目別では、外食、書籍・他の印刷物などが前年同月比で上昇し、他の諸雑費、授業料等などが下落した。

なお、総合指数は101.1で前年同月比0.5%下落し、3か月連続で前年を下回った。食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合は100.2で、前年同月比0.1%下落し、2か月ぶりに前年を下回った。



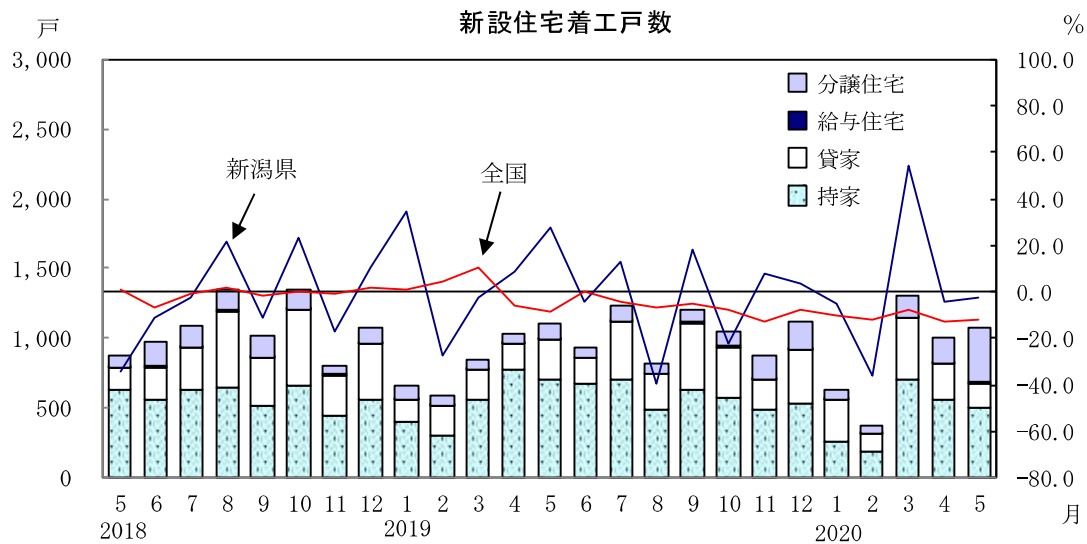
注：折れ線グラフは指数で左目盛、棒グラフは前年同月比で右目盛

2 住宅投資 ～おおむね横ばいとなっている～

○ 新設住宅着工戸数

5月の新設住宅着工戸数は1,083戸となり、前年同月比2.6%減少し、2か月連続で前年を下回った。

利用関係別では、持家が前年同月比28.1%、貸家が同41.2%減少し、分譲が同229.8%増加した。

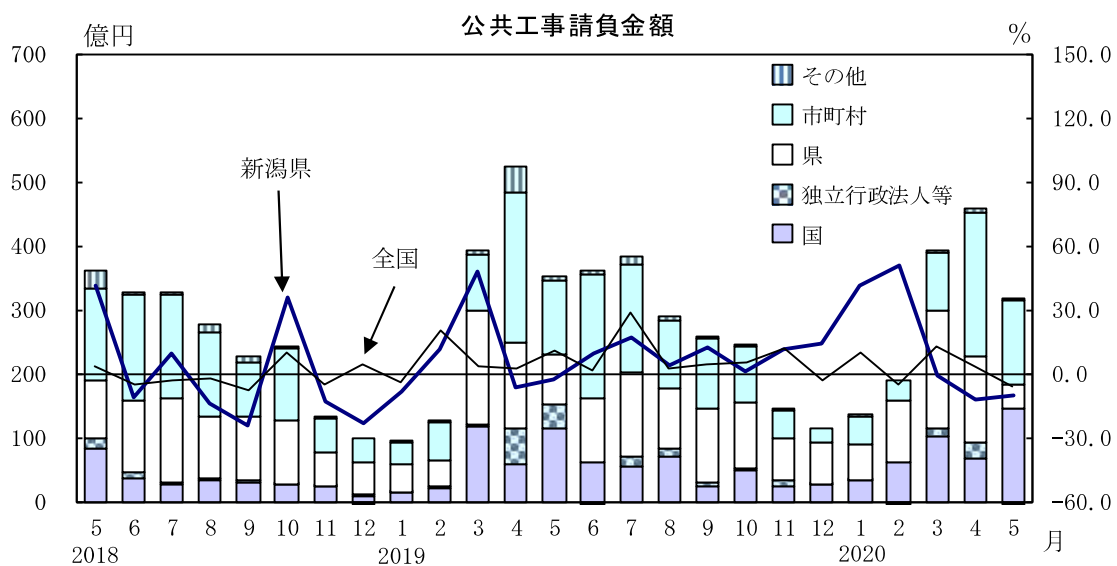


3 公共投資 ～弱含んでいる～

○ 公共工事請負金額

5月の公共工事請負金額は316億円となり、前年同月比9.9%減少し、3か月連続で前年を下回った。

発注者別では、独立行政法人等は前年同月比105.5%、県は同52.9%それぞれ減少し、国は同25.8%、市町村は同14.9%それぞれ増加した。

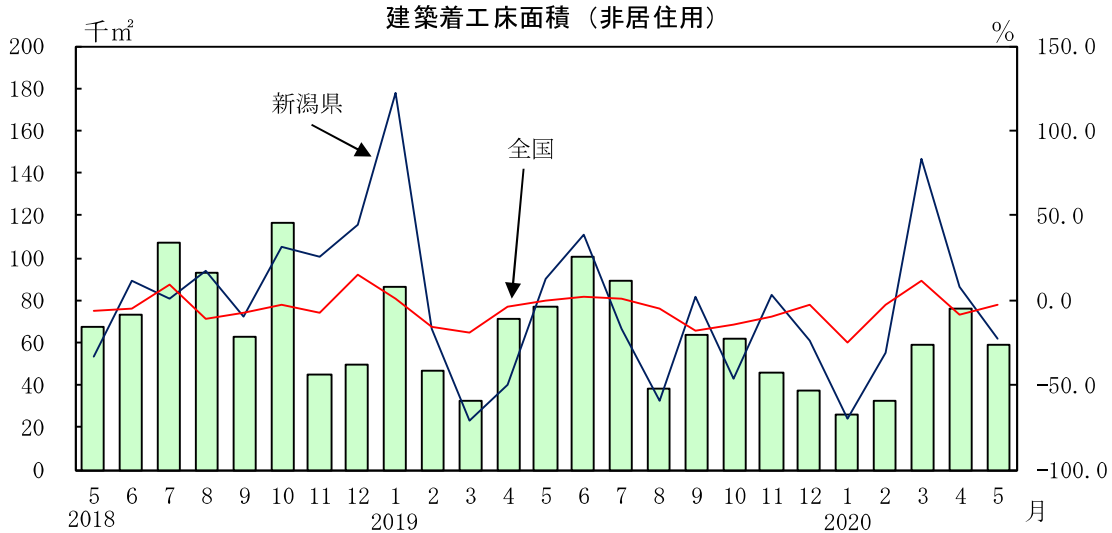


4 設備投資 ～弱い動きがみられる～

○ 建築着工床面積（非居住用）

5月の建築着工床面積は、58,864㎡となり、前年同月比23.1%減少し、3か月ぶりに前年を下回った。

用途別にみると、運輸業用、金融業、保険業用などが前年同月を上回り、製造業用、宿泊業、飲食サービス業用などが下回った。

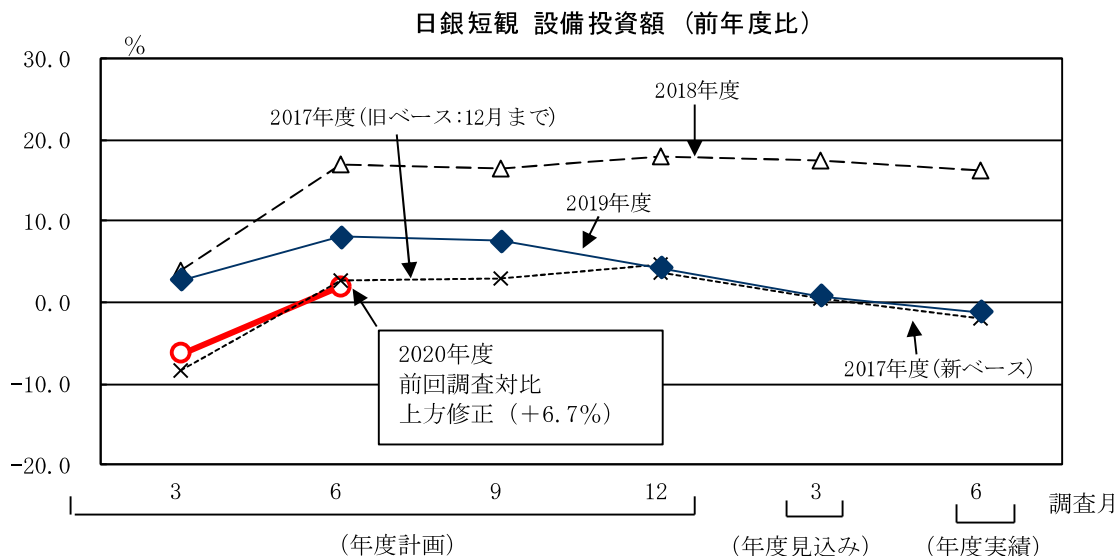


注：棒グラフは新潟県の実数で左目盛、折れ線グラフは前年同月比で右目盛

○ 企業の設備投資額

2019年度の企業の設備投資額（日銀短観・2020年6月調査）は、全産業で前年度比1.2%減少となった。製造業では前年度を10.6%上回ったものの、非製造業で12.5%下回る実績であった。

また、2020年度計画は、全産業で前年度比1.9%増加の計画となっている。製造業では前年度を7.0%下回るものの、非製造業で12.6%上回る計画である。前回調査対比では、全産業で上方修正となった。



注：2018年3月調査から対象企業の見直しが行われたことから、グラフについては、新旧ベースを併記。また、2018年3月調査を2017年12月調査と比較する場合には、12月調査データは新ベースを使用。

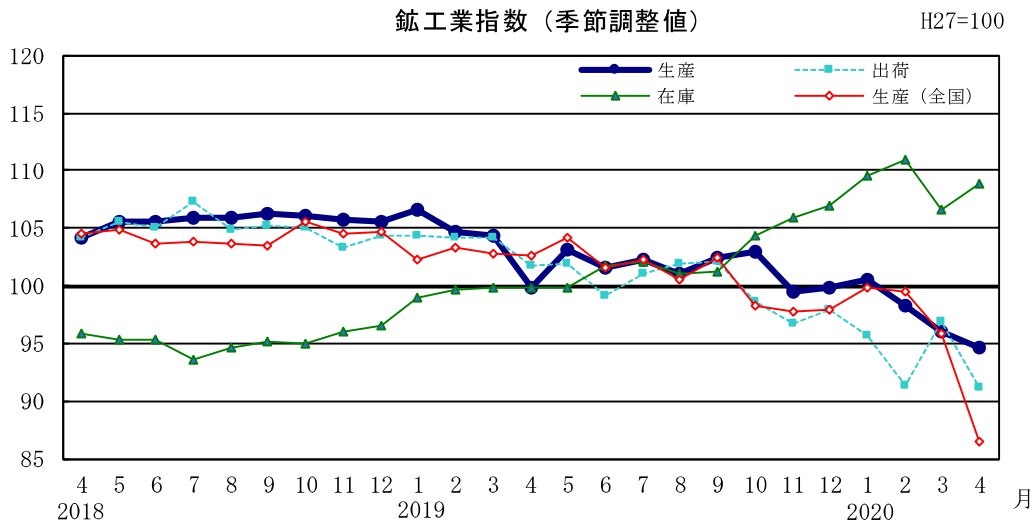
5 生産 ～一段と弱まっている～

○ 鉱工業指数

4月の鉱工業指数（季節調整値）は、生産指数が94.6となり、前月比1.5%低下し、3か月連続で低下した。前年同月比（原指数）では4.8%低下と1年2か月連続で前年を下回った。

業種別にみると、汎用・生産用・業務用機械工業が前月比9.6%、金属製品工業が同6.7%、輸送機械工業が同8.8%それぞれ低下するなど15業種中12業種が低下した。

なお、出荷指数は91.1となり2か月ぶりに低下し、在庫指数は108.9となり2か月ぶりに上昇した。

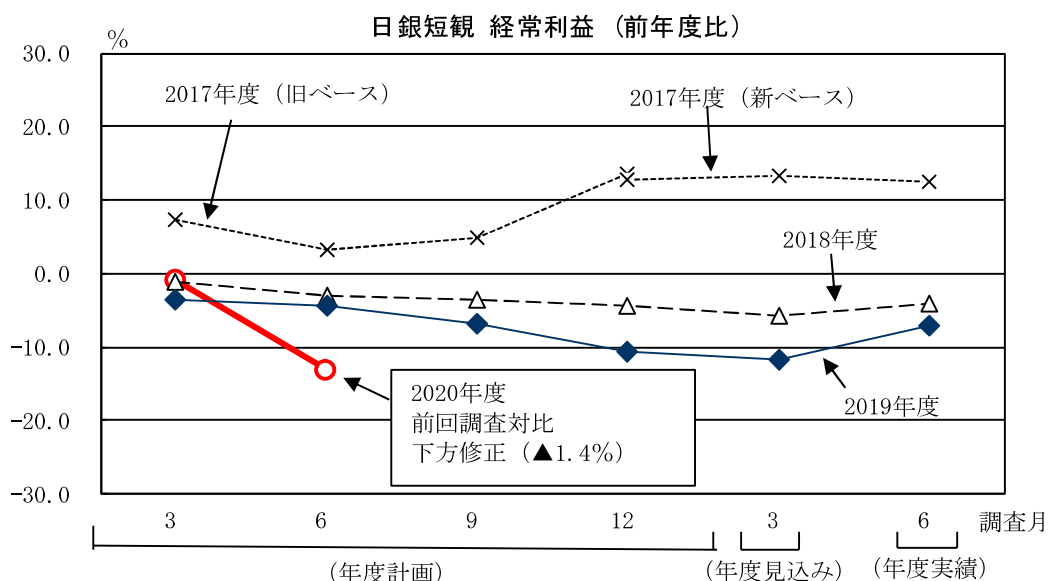


6 企業 ～厳しさが増している～

○ 企業収益

2019年度の企業の経常利益（日銀短観・2020年6月調査）は、全産業で前年度比7.0%減益となった。製造業が11.8%減益、非製造業が3.7%減益と、ともに前年度を下回る実績であった。

また、2020年度計画は、全産業で前年度比13.2%減益の計画となっている。製造業は7.0%減益、非製造業は17.1%減益となり前年度を下回る計画である。前回調査対比では、全産業で下方修正となっている。

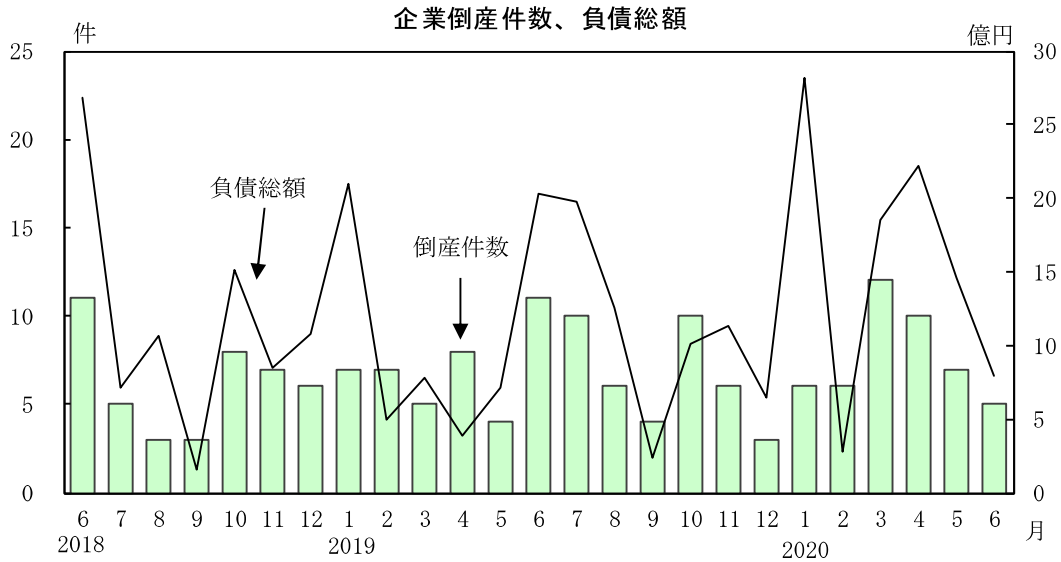


注：2018年3月調査から対象企業の見直しが行われたことから、グラフについては、新旧ベースを併記。また、2018年3月調査を2017年12月調査と比較する場合には、12月調査データは新ベースを使用。

○ 企業倒産

6月の倒産件数（負債額1,000万円以上）は5件となり、前年同月比54.5%減少し、4か月ぶりに前年を下回った。

また、負債総額は8億円で前年同月比60.8%減少し、4か月ぶりに前年を下回った。負債総額10億円以上の大型倒産はなかった。

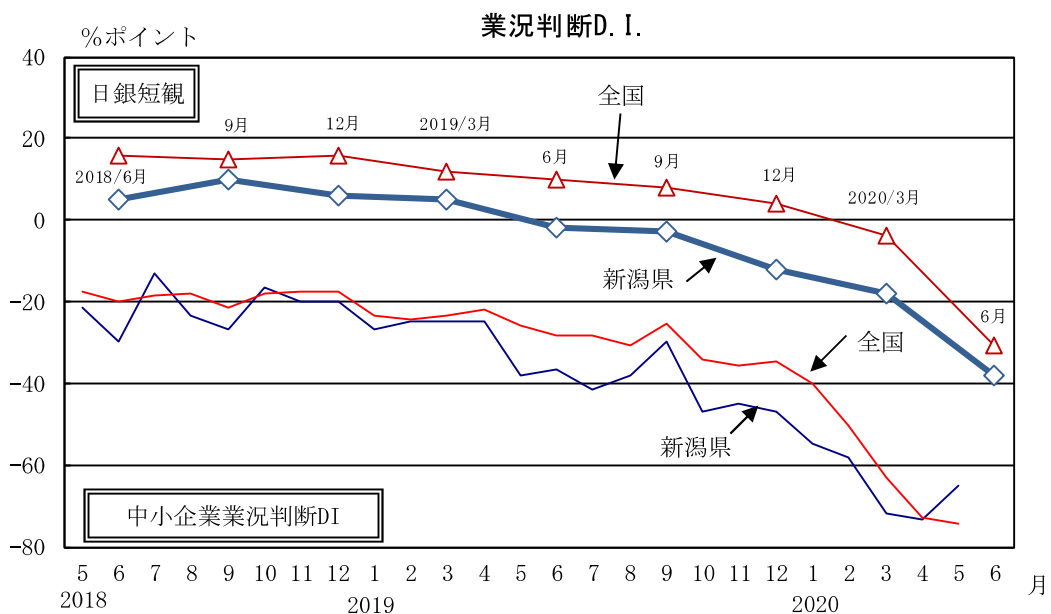


注：棒グラフは倒産件数で左目盛、折れ線グラフは負債総額で右目盛

○ 企業の景況感

企業の景況感については、日銀短観（2020年6月調査）の業況判断D.I.は、▲38%ポイントとなり、前回調査から20%ポイント悪化した。

また、5月の中小企業業況判断D.I.は▲65.0%ポイントとなり、前月から8.3%ポイント改善し、6か月ぶりに改善した。

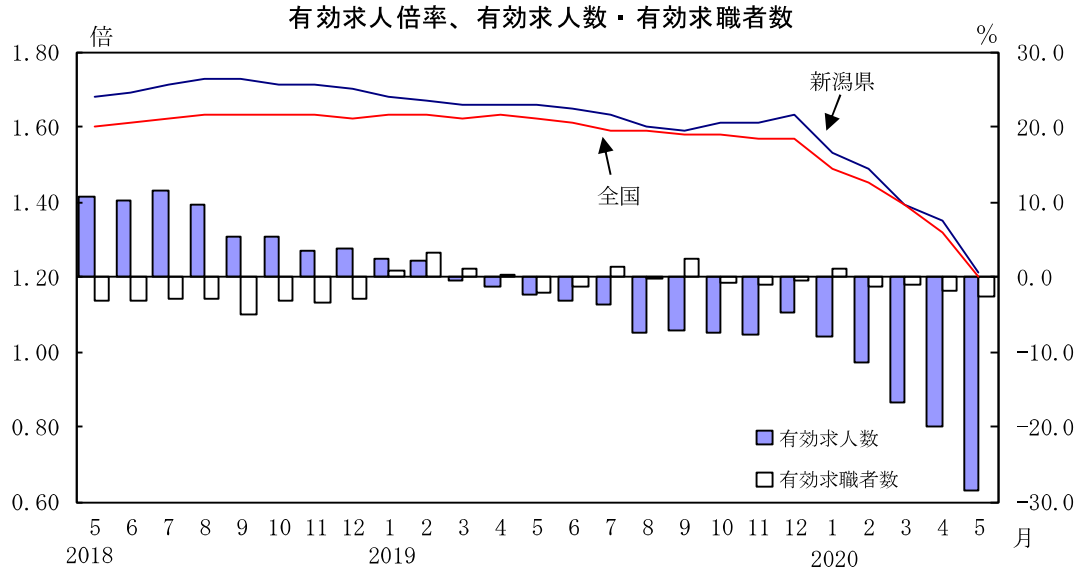


7 雇 用 ～弱い動きとなっている～

○ 有効求人倍率

5月の有効求人倍率（パート含む全数・季節調整値）は1.21倍で、前月から0.14ポイント低下し、5か月連続で低下した。

有効求人数は、前年同月比28.6%減と1年3か月連続で減少した。また、有効求職者数は、同2.6%減と4か月連続で減少した。



注：折れ線グラフは有効求人倍率で左目盛、棒グラフは前年同月比で右目盛